

## 児童生徒とともに学び成長するプロジェクト

### 「関わりの中で何を得的のか」

児童生徒とともに学び成長するプロジェクトは、いじめや不登校といった児童生徒が抱える問題について学ぶことができます。その中で、教師としてどのような援助や言葉かけを行うことができるかについて考え、教師としての成長を目指します。また、児童館へボランティアとして参加し、放課後の児童生徒の様子を知ることができます。

#### \*TEAM DATA\*

メンバー数：4名  
活動場所：伊勢市  
担当教員：尾崎 剛志（現代日本社会学部）  
土谷 長子（教育学部）  
中野 一茂（現代日本社会学部）  
活動年度：R03,R04

#### 👉 こんな人におすすめ！

- ・教師を目指している人
- ・子どもと触れ合う機会を増やしたい人
- ・コミュニケーション能力を伸ばしたい人



#### 1年の活動まとめ・考察（成果と課題）

二年生四人、担当教員三人の計七人がこのプロジェクトに参加した。しかし、活動メンバーとの時間が合わず、学内での活動や打ち合わせを行うことが難しかった。そのため、オンラインでの打ち合わせを中心に、今後の方針を決定した。打ち合わせの中で、児童生徒と触れ合う機会を増やすことが必要だと考え、担当教員に伊勢市内の児童館及び学童保育を運営している社会福祉法人に協力を依頼して頂いた。その結果、ボランティアとして参加することが許可された。また、個人での参加の場合、アルバイトとして働くことを現場職員に勧められた。活動メンバーの参加意欲は高いものの、一月までの活動は計二回と少ないため、ボランティアとして個人での参加が良いという結論になっている。(アルバイトとして参加する場合、CLLの活動としては外れてしまうと考えたため。)

活動の成果として、放課後の児童生徒の様子や学習風景などをすることができた。大学では体験することができないことや気づきを多く得られた。その中で、児童生徒間の衝突や学習指導の方法といった課題が浮き彫りとなった。担当教員や現場職員の助言の下、児童生徒と関わっていき、経験を積むことあ現段階では求められている。参加回数が増え、児童生徒との関係が良好であれば、折り紙大会や季節に合ったイベントを行うことを今後の目標としている。

以上のことから、活動メンバーとの時間の調整や活動参加回数の増加などが課題であり、今後どのようにして活動を進めていくのかを今一度打ち合わせをする必要がある。

#### 活動を通して学んだこと

学校以外の児童生徒がどのように過ごしているのか、何が好きなのかといった日常風景について触れることができた。また、教師を目指す上で必要となる能力について考える機会を多く得ることができた。

#### 担当教員より

##### 現在日本社会学部 尾崎 剛志

本年度は当初予定を早め、実際に児童生徒と関わる機会を確保するため、伊勢市内の児童館及び学童保育を運営している社会福祉法人に協力を依頼した。1月までに2回、児童館で児童生徒と関わる機会を設け、2月にも活動を予定している。児童生徒との遊びを通じた関わりの中で、子どもの抱えるそれぞれの発展上の課題にどのように寄り添っていくのかを、現場職員の助言を得ながら進めている。



#### 月別活動

(6月) 学内での打ち合わせ



(10月) オンライン打ち合わせ

(11月) 児童館での活動開始 反省会

(12月) 児童館での活動開反省会

(1月) 今後の話し合い

(2月) 児童館での活動（予定）

(3月) 児童館での活動（予定）

#### 成果物 / 制作物